

大相撲における女人禁制の研究 (Ⅲ)

—— 大相撲観戦者の事例から ——

山本恵弥里*1・生沼芳弘*2・了海 諭*3

A Survey of Nix Women in the Sumo Ring (III)

—— The Case of Sumo Spectators' Voices ——

by

Emiri YAMAMOTO, Yoshihiro OINUMA and Satoru RYOKAI

Abstract

The purpose of this paper is to look at the opinions of “Nix Women” and traditional Sumo patterns from viewpoint of the spectators. One of the problems of the Grand Sumo Tournament is “Nix Woman” recently. The Grand Sumo Tournament has begun since around 1751. Though women could not see the bout and went up the Sumo ring firstly, they were gradually able to watch the Sumo game from 1872. Today is 130 years since people could watch the Sumo match without regard to sex. Yet, nobody surveyed “Nix Women” and traditional Sumo rules. Therefore, the survey carried out questionnaires for the spectator who saw the Sumo four times: March, May, July, and November in 2004. As results, it was clear for the spectators at Sumo to agree with “Nix Women.” Furthermore, they thought that women should not come to the ring when the ceremonies hold.

On the other hand, the spectators at the Sumo bother very expensive prices of tickets. They hope to be more reasonable tickets' price than the present. Also, they expect to restore the system of the day-off with pay (“Kousyo-Seido”). However, in the case of the chopping motions with the hand (“Tegatana”), they never mind the wrestlers use which hands receive the prize money. Besides, they are favorable to increase the foreign wrestlers because they think the Sumo as one of sports.

I はじめに

近年，大相撲の本場所の観戦は満員御礼の出る

回数が減りつつある。その中であって相撲協会は、公共の場での受動喫煙の防止を義務付ける健康増進法が施行されたこと、嫌煙権を主張する団体か

* 1 東海大学大学院体育学研究科 * 2 東海大学体育学部体育学科 * 3 東海大学体育学部非常勤助手

ら禁煙化の要望が協会に出されたこと、また文部科学省の指導もあり、伝統の一つであった客席での喫煙を禁止することにより、観客数の回復を図ろうと試み、2005年1月より国技館の館内が全館禁煙になり、長年親しまれてきた桝席にあった火箱がなくなった本場所であった。

また、大相撲における伝統・慣習の中で女人禁制は、近年の最たる問題点として取り上げられている。大相撲はわが国の国技として広く親しまれているが、現在の大相撲が始まった江戸時代中期の宝暦年間（1751-1763）から本場所の土俵に女性が入ることは禁じられ（女人禁制）、江戸時代は女性の大相撲見物も禁じられていた。女性の本場所観戦が許されたのは明治5年（1872）からである。また、当初は初日の観戦は許されておらず、2日目以降からであった。性別に関係なく観戦できるようになり130年ほどが経つが、女人禁制等に関する観戦者の意識は調査されてこなかった。そこで本調査は、大相撲における女人禁制と伝統に関する観戦者の意識の傾向を明らかにすることを目的とした。また本調査は、財団法人日本相撲協会の許可を得て行ったものである。

II 大相撲の伝統における女人禁制の問題

近年の女人禁制問題としては、平成元年（1989）に当時の森山真弓官房長官が「女だから大相撲の土俵に上がれないなんておかしい。優勝力士に贈る内閣総理大臣杯を自ら渡したい」と発言したことに始まる。しかし、この時は相撲協会に押し切られる形で土俵に上がることは実現しなかった。

また、「相撲を取らせろというわけではない。なぜ、賞を渡すのに土俵に上がれないのか。横綱審議委員会の構成も女性がゼロというのはいかがか」と平成5年（1993）に赤松良子文相の発言を受けて、平成12年（2000）に内館牧子氏が横綱審議委員会初の女性メンバーとなった。そして同年、大阪で太田房江氏が初の女性知事となり、太田知事は平成12年2月8日の初登庁後の記者会見で「大相撲春場所で自ら土俵に上がって大阪府知事賞を優勝力士に手渡したい」との意向を表明した。

しかし、相撲協会はこれまでの伝統に従って太田知事からの申し入れに難色を示した。その後、太田知事は再三に渡り相撲協会へ申し入れをしているが未だ結論は出ていない。

太田知事が土俵に上がって直接府知事賞を授与したいと初めて発言した後、同問題について朝日新聞は平成12年2月20・21日電話による調査¹⁾を行った。その結果、47%が太田知事を支持し、37%が相撲協会を支持した。また男女別では、男性48%、女性45%が太田知事を支持し、男性39%、女性35%が相撲協会をそれぞれ支持した。

また、4年後の平成16年（2004）にも朝日新聞は「土俵に女性があがれない慣例には？」という問題について調査²⁾を行った。この調査の回答者数は3525名で、土俵に女性が上がれないことに54%が反対し、46%が賛成という結果になった。男女別でも同様で、性差はほとんどみられなかった。

III 調査方法

本調査では、大相撲観戦者が女人禁制等についてどの様に考えているのかというデータを得るために、平成16年（2004）3月大阪場所、5月東京場所、7月名古屋場所、11月福岡場所に大相撲観戦のために来場した観戦者を対象に質問紙調査を計4回実施した。

質問紙は、入り口のゲート付近にて、9時の開場より14時までは来場した観戦者の男女それぞれ約10名に1名の割合で、14時以降は男女それぞれ約20名に1名の割合で配布した。また、回収は全取組終了後に出口付近にて行ったものと、配布時に返信用封筒を添えており、郵送による回収も行った。調査の期日、場所、配布数、回収数、回収率は表1の通りである。

質問紙の内容は「大相撲の女人禁制等の伝統に関する意識」について尋ねたものである。四段階評価を用いたものであった。また、調査分析方法は、単純集計を行った後に男女別に分けてクロス集計を行い、女人禁制に関する13項目と、大相撲の伝統に関する10項目についての回答内容の比較、検討を行った。

表1 調査の概要

	調査場所	調査日	配布総数	回収数	回収率
3月 大阪場所	大阪府立体育館	3月20日(土) 7日目	400	283	70.8%
5月 東京場所	両国国技館	5月15日(土) 7日目	400	282	70.5%
7月 名古屋場所	愛知県体育館	7月14日(水) 11日目	300	200	66.7%
11月 福岡場所	福岡国際センター	11月23日(火) 10日目	300	165	55.0%
合計			1400	930	66.4%

IV 調査結果

調査より得られた資料について、1) 回答者の概要、2) 女人禁制、3) 大相撲の伝統の3点から整理・集計をした。その後、男女別に分けて集計を行った。さらに観戦者の意識の傾向を把握するため、四段階評価を二段階評価にまとめて集計をした。

1. 回答者の概要

回答者の概要は表2の通りである。

表2 質問紙調査実施者 (N=930)

度数(人)		場所別		度数(人)	度数(人)
性別	場所別	男性	女性		
男性	3月大阪場所	283			
女性	5月東京場所	282			
	7月名古屋場所	200			
	11月福岡場所	165			
年齢層		場所(性別)			
10歳未満	30	3月大阪場所	162	121	
20代	120	5月東京場所	158	124	
30代	156	7月名古屋場所	100	100	
40代	156	11月福岡場所	96	69	
50代	223				
60代	175				
70代	57				
80歳以上	7				

2. 女人禁制

女人禁制に関する13項目について、男女別に分けて集計を行った。

1) 女人禁制を守るべきか

女人禁制を守るべきかということについて、男性334人、女性249人、全体では62.6%が女人禁制を守るべきであると考えている。(図1)

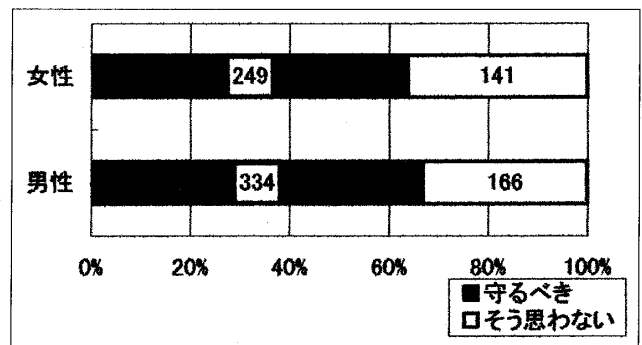


図1 女人禁制を守ることにについて

2) セレモニーで女性が土俵に上がること

セレモニーで女性が土俵に上がることにについて、男性286人、女性238人、全体では59.1%がセレモニーで女性が土俵に上がることには反対であると考えている。(図2)

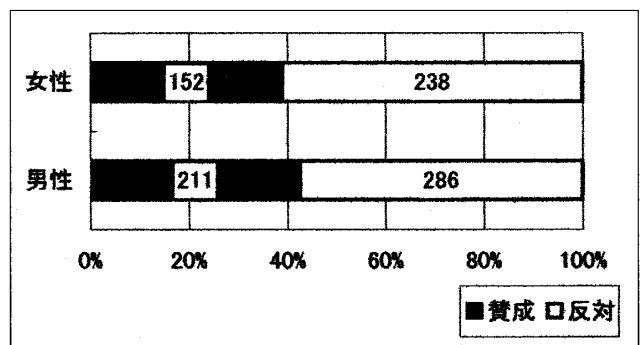


図2 セレモニーで女性が土俵に上がること

3) 表彰時にだけ女性が土俵に上がること

表彰時にだけ土俵に上がることにについては、男性263人、女性193人、全体では52.8%が反対している。(図3)

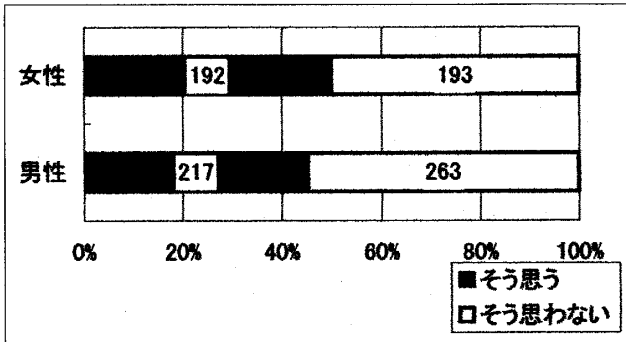


図3 表彰だけなら土俵に上がっても構わない

4) 女性力士が土俵に上がること

女性力士が土俵に上がることについて、男性296人、女性230人、全体では74.2%が反対している。(図4) (この項目は大阪・東京・名古屋のみの調査結果)

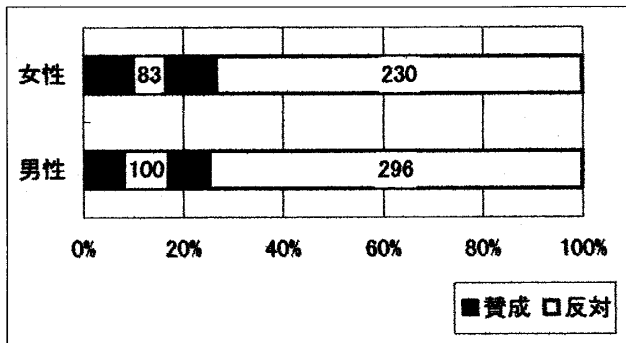


図4 女性力士が土俵に上がること

5) わんぱく相撲の女の子が土俵に上がること

わんぱく相撲の女の子が土俵に上がることについて、男性193人、女性146人、全体では51.4%が土俵に上がることを反対している。(図5) (この項目は大阪・東京・名古屋のみの調査結果)

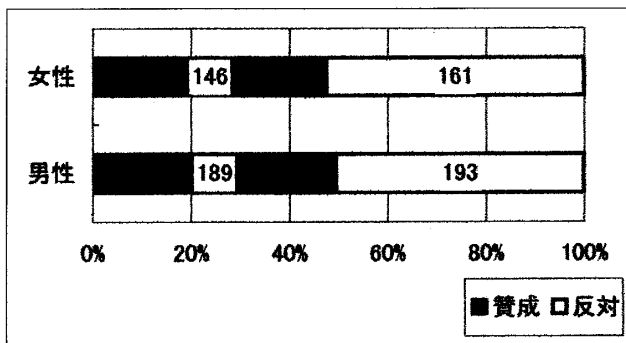


図5 わんぱく相撲の女の子が土俵に上がること

6) 女性が土俵に上がれば女性ファンが増えるのではないか

女性を土俵に上げれば女性ファンが増えるのではという項目については、男性342人、女性282人、全体では73.1%が増えるとは思わないとしている。(図6)

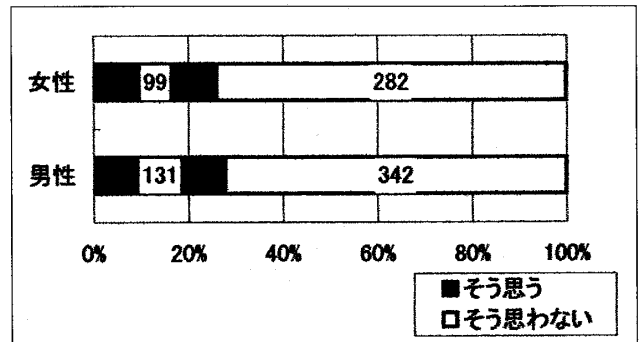


図6 女性を土俵に上げれば女性ファンが増える

7) 男女平等の時代にナンセンスではないか

男女平等の時代にナンセンスではないかという項目については、男性328人、女性264人、全体では68.3%がナンセンスとは思わないとしている。(図7)

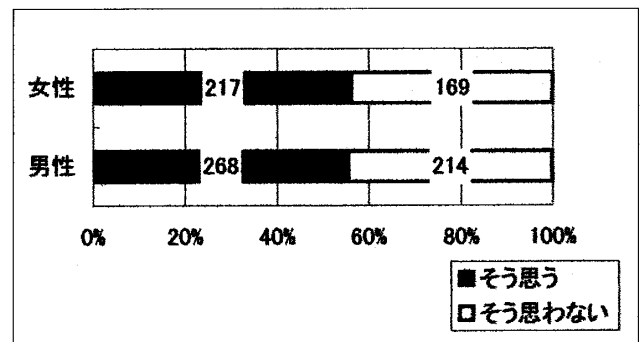


図7 相撲関係者の判断に任せるべき

8) 何でも男女平等はおかしいのではないか

何でも男女平等はおかしいのではという項目については、男性326人、女性239人、全体では60.6%が何でも平等なのはおかしいとしている。(図8)

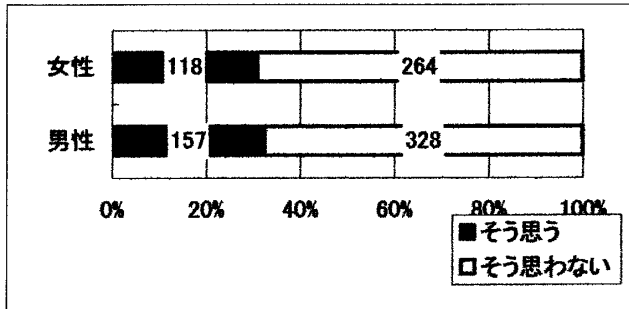


図8 男女平等の時代にナンセンスである

9) 女人禁制は相撲関係者に任せるべきか

女人禁制については相撲関係者の判断に任せるべきかという項目については、男性268人、女性217人、全体としては、55.9%が相撲関係者に任せるべきだとしている。(図9)

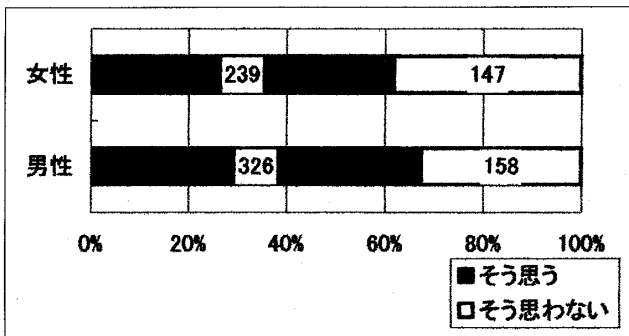


図9 何でも男女平等はおかしい

10) 女人禁制のような伝統を重んじる社会があってもよいのでは

女人禁制のような伝統を重んじるような社会があってもよいのではという項目については、男性372人、女性307人、全体としては77.3%がこのような社会があっても良いと考えている。(図10)

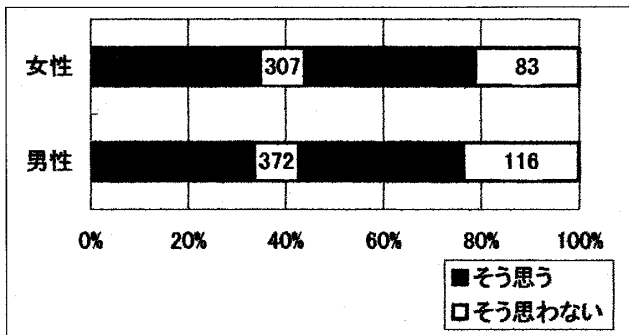


図10 女人禁制のような伝統を重んじる社会があってもいい

11) 外国人に門戸を開いて女性に開かないのはおかしいのでは

外国人に門戸を開いて女性に開かないのはおかしいのではという項目については、男性45人、女性44人、全体としては54.2%がおかしいとは思わないとしている。(図11) (この項目は福岡のみ調査)

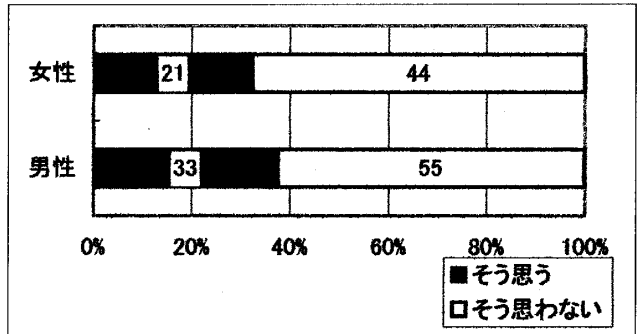


図11 男性社会に女性が出るべきではない

12) 男性社会に女性が出るべきではないのでは

男性社会に女性が出るべきではないのではという項目については、男性55人、女性44人、全体では64.7%が女性も男性社会に出てもよいとしている。(図12) (この項目は福岡のみ調査)

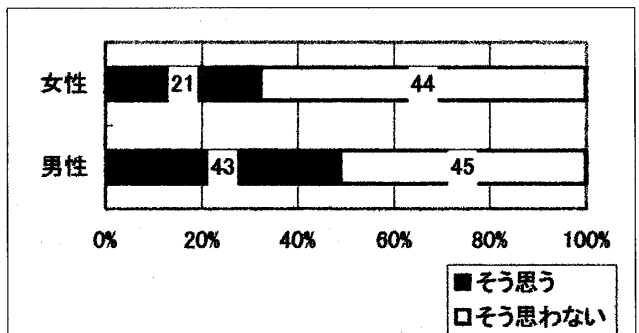


図12 外国人に門戸を開いて女性に開かないのはおかしい

13) 女性が天皇になること

女性が天皇になることという項目については、男性73人、女性55人が、全体では83.7%が賛成であると考えている。(図13) (この項目は福岡のみ調査)

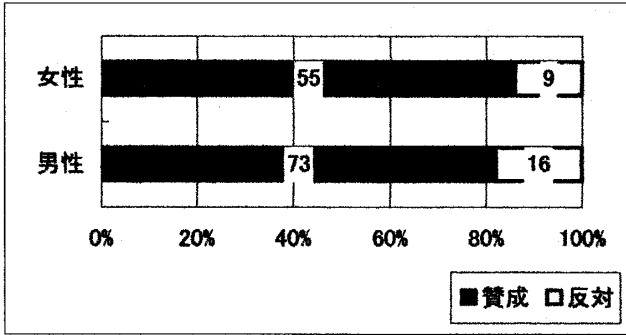


図13 女性が天皇になることについて

3. 大相撲の伝統

大相撲の伝統に関する10項目について、男女別に分けて集計を行った。

1) 同部屋対戦もするべきか

同部屋の対戦もするべきかという項目について、男性183人、女性168人、全体では56.9%が対戦するべきだと考えている。(図14) (この項目は東京・名古屋・福岡のみ調査)

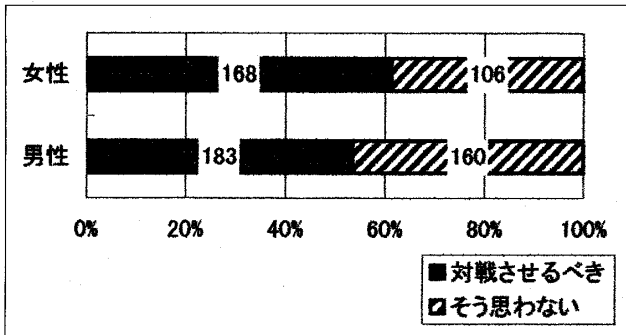


図14 同部屋の対戦もするべき

2) 仕切りの時間が長いのではないか

仕切りの時間が長いかどうかという項目については、男性252人、女性205人、全体では76.0%が長いと思わないとしている。(図15) (この項目は東京・名古屋・福岡のみ調査)

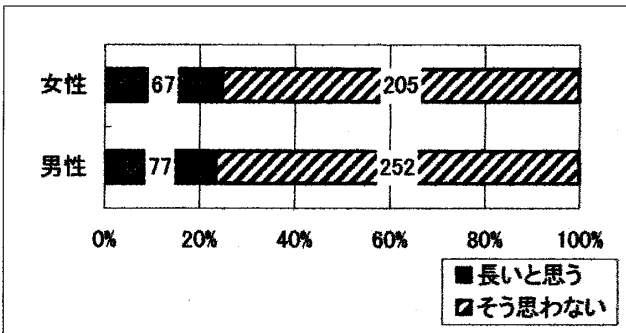


図15 仕切りの時間が長い

3) チケットの値段が高いのでは

チケットの値段について聞いた項目については、男性266人、女性226人、全体では80.8%が値段が高いと感じている。(図16) (この項目は東京・名古屋・福岡のみ調査)

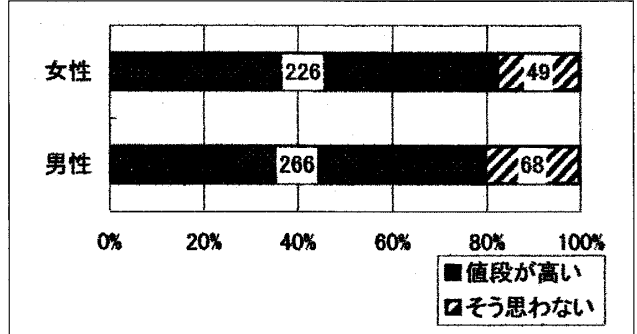


図16 チケットの値段が高い

4) 結びの一番(終了時間)が早い

結びの一番が早いかどうかという項目について、男性259人、女性218人、全体では79.7%が早いとは思わないとしている。(図17) (この項目は東京・名古屋・福岡のみ調査)

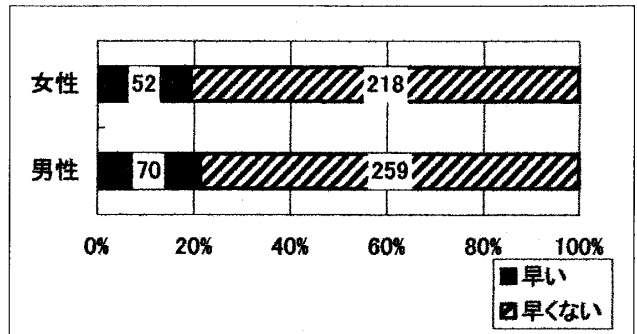


図17 結びの一番(終了時間)が早い

5) 公傷制度はあった方がよい

公傷制度はあった方がよいかという項目については、男性193人、女性142人、全体では57.3%がよかったと思うとしている。(図18) (この項目は東京・名古屋・福岡のみ調査)

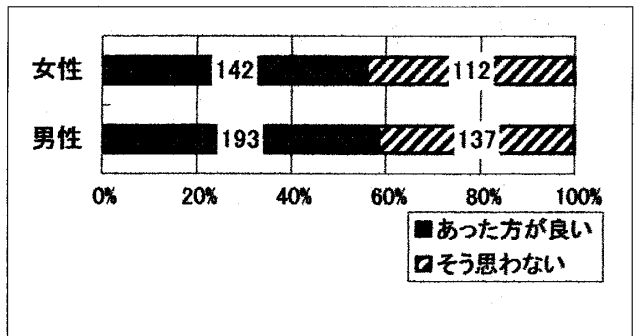


図18 公傷制度はあった方がよい

6) 手刀は左右どちらでも良い

手刀は左右どちらでもよいかという項目について、男性120人、女性93人、全体では62.8%が左右どちらでもよいと思うとしている。(図19) (この項目は名古屋・福岡のみ調査)

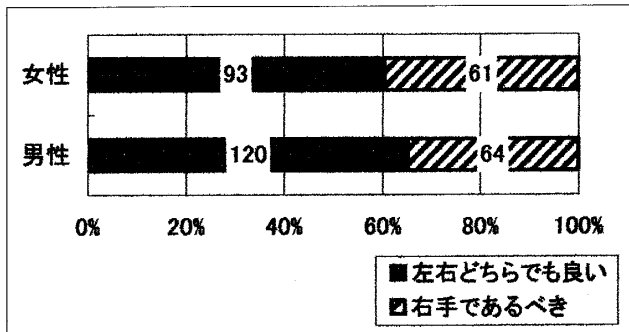


図19 手刀は左右どちらでも良い

7) 外国人力士が増えること

外国人力士が増えることについての項目は、全体でみると52.5%が賛成であるとしている。しかし、男性は全体の結果と同様に賛成であるとしているが、女性は反対であるとしている。(図20)

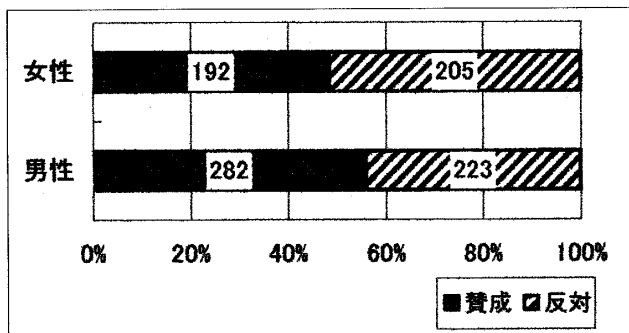


図20 外人力士が増えること

8) 学生力士が増えること

学生力士が増えることについても項目は、男性421人、女性344人、全体では86.5%が学生力士が増えることに賛成だとしている。(図21)

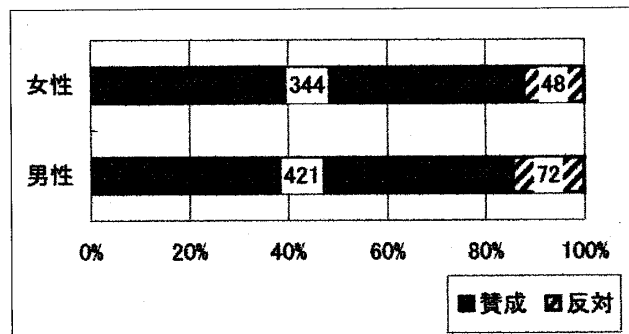


図21 学生力士が増えること

9) 大相撲はスポーツである

大相撲はスポーツであるかどうかという項目は、男性144人、女性110人、全体では93.4%がスポーツであると考えている。(図22) (この項目は東京のみ調査)

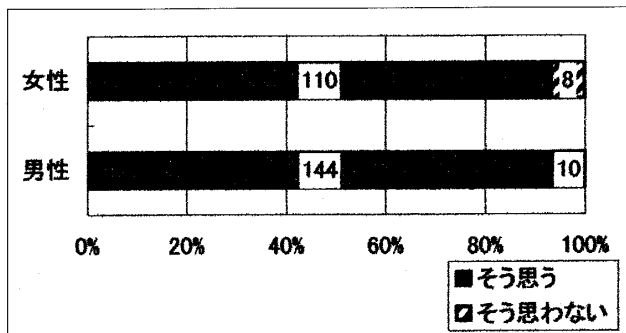


図22 大相撲はスポーツである

10) 大相撲は日本文化である

大相撲は日本文化であるかどうかという項目は、男性150人、女性121人、全体では98.1%が日本の文化であると考えている。(図23) (この項目は東京のみ調査)

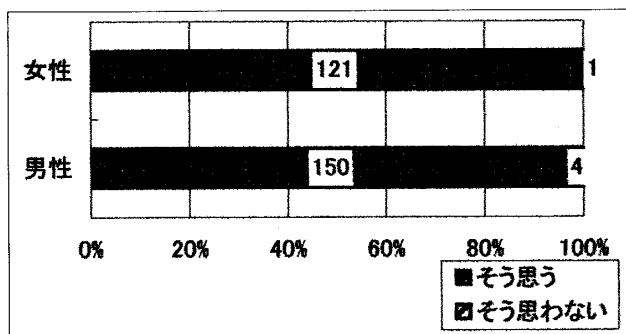


図23 大相撲は日本文化である

V まとめ

調査結果を比較検討した結果、大相撲観戦者が持つ女人禁制の意識には性差がほとんど見られなかった(図1~13参照)。観戦者の意識としては女人禁制を今後も守っていくべきであり、このような伝統を重んじる社会があっても良いという傾向が明らかになった。また、女性(女の子)力士であれ、表彰などのセレモニーであっても女性には土俵に上がって欲しくないという傾向も明らかとなった。

大相撲における伝統についての意識についても調査結果を比較検討した結果、性差はほとんど見られなかった(図14~23参照)。観戦者の持つ意

識は、チケットの値段の高さや公傷制度の復活、手刀は左右どちらでも良いのではないかという傾向がみられた。また、大相撲は日本の文化ではあるが、外国人力士が増えることにはおおよそ賛成であるとしている。大相撲をスポーツであると捉えている観戦者が多く（図22）、国内で行われている野球やサッカーなど、大相撲以外のスポーツには外国人選手が多く参加していることが要因ではないだろうか。

この調査によって、大相撲観戦者の持つ意識の傾向が明らかとなり、これを基に相撲協会との連携を図ることで、大相撲人気の回復の検討材料となるための手がかりを得ることもできた。しかし、この調査では大相撲観戦者のみの調査であったため、大相撲観戦者以外を対象とした調査研究が今後の課題である。また、女人禁制以外の大相撲の伝統に着目した調査研究も今後の課題である。

引用・参考文献

- 1) 朝日新聞朝刊, 2002/2/24, p. 14
- 2) 朝日新聞 be on Saturday『be between—女性と土俵—』, 2004/3/6
- 3) 北出清五郎 (1993) なるほど大相撲!, PHP

研究所

- 4) 生沼芳弘 (1994) 相撲社会の研究, 不昧堂出版
- 5) 生沼芳弘・了海論・山本恵弥里 (2004), 大相撲におけるジェンダーの研究, 日本スポーツ社会学会第13回大会抄録集 pp. 35-36
- 6) 生沼芳弘・了海論・山本恵弥里 (2005) 大相撲における女人禁制の研究3—外国人観戦者の意識一, 日本スポーツ社会学会第14回大会抄録, pp. 54-55
- 7) 澤田一矢 (1995) 大相撲の事典, 東京堂出版
- 8) 高橋義孝 (1998) 土俵がグリーンと近くなる, 大相撲の事典, 三省堂
- 9) 和歌森太郎 (2003) 相撲今むかし, 隅田川文庫
- 10) 和歌森太郎 (1957) 大相撲観客数調査結果報告—夏場所観客数の生態と表情をさぐる—, 『相撲』昭和32年8月号, ベースボールマガジン社, pp. 203-222
- 11) 山田知子 (1996) 相撲の民俗学, 東書選書
- 12) 山本恵弥里・生沼芳弘・了海論 (2005) 大相撲における女人禁制の研究2—観戦者の意識に関する事例一, 日本スポーツ社会学会第14回大会抄録集, pp. 52-53
- 13) 了海論・生沼芳弘・山本恵弥里 (2005) 大相撲における女人禁制の研究1—大相撲観戦者の男女比一, 日本スポーツ社会学会第14回大会抄録, pp. 50-51